

よこいち

ロゴマークの意味

- 横市地区の名称を意識してもらう
 - 一人一人が横一線、平等の立場で参加できる
 - 地区の元気づくりの核であると意識してもらう
 - 住民みんなの心がひとつである
- ※このロゴマークは、平成5年に横市地区元気づくり委員会が制定したものです

桜舞う わたしたちのふるさと

横市マップ



母智丘公園
日本のさくら名所100選のひとつ。母智丘関の尾尾立自然公園である。明治4年(1871)に上庄内郷地頭の三島通庸(みちつね)が桜を植樹。明治15年(1882)に森熊太郎が桜を植樹。大正2年(1913)に黒岩常次郎が桜を植樹。昭和2年(1927)に江夏芳太郎が桜を植樹。今では、ソメイヨシノなど約1000本が咲き誇る南九州を代表する桜の名所である。



母智丘神社
明治3年(1870)、上庄内郷地頭の三島通庸(みちつね)が、それまで小さな祠(ほこら)のある持尾稲荷を再興し、母智丘(もちお)神社と命名して郷社とした。社名の由来は、この一帯の地名(地名)が持尾(もちお)であることによる。明治6年(1873)丘のふもとにあった大年神を合祀(ごうし)して郷社に昇格した。祭神は、豊受姫神(トヨウケヒメノカミ)と大年神(オトシノカミ)である。

横市地区の名所めぐり



3 陰陽石
母智丘神社の南側(裏手)にある巨石群のひとつ。陰石・周田19.3m、高さ1.7m。陰門は、長さ1.2m、深さ0.5mあり、古くから安産と縁結びの神石とされ、祈願水を陰門にかけると願いがかなうといわれられている。陰石・周田17.3m、高さ3.3m。陰石と同時に発掘された神石で、陰石と同様、安産と縁結びの神石とされている。周囲には、馬頭観音と稲荷神社がある。



4 トーチカ跡
太平洋戦争(昭和16~20年、1941~1945)の遺跡。トーチカとは、コンクリートで堅固に構築され、中に銃火器などを備えた防陣地のことで昭和18年(1943)に建設された。終戦後、だれかが、このトーチカの上に、平和と五穀豊穡を願って田の神さあを据えた。



5 特別攻撃隊出撃の地
太平洋戦争の時、都城西飛行場から昭和20年4月6日、特別攻撃隊として第一陣が沖繩の空をめざして飛び立てた。特攻隊員のほとんどが18歳から23歳の若者で、都城西・東飛行場から79名(西飛行場からは10名)の隊員が飛び立てて戦死した。毎年4月6日、都原公園(旧陸軍墓地)において、都城市特別攻撃隊戦没者慰霊祭が行われている。



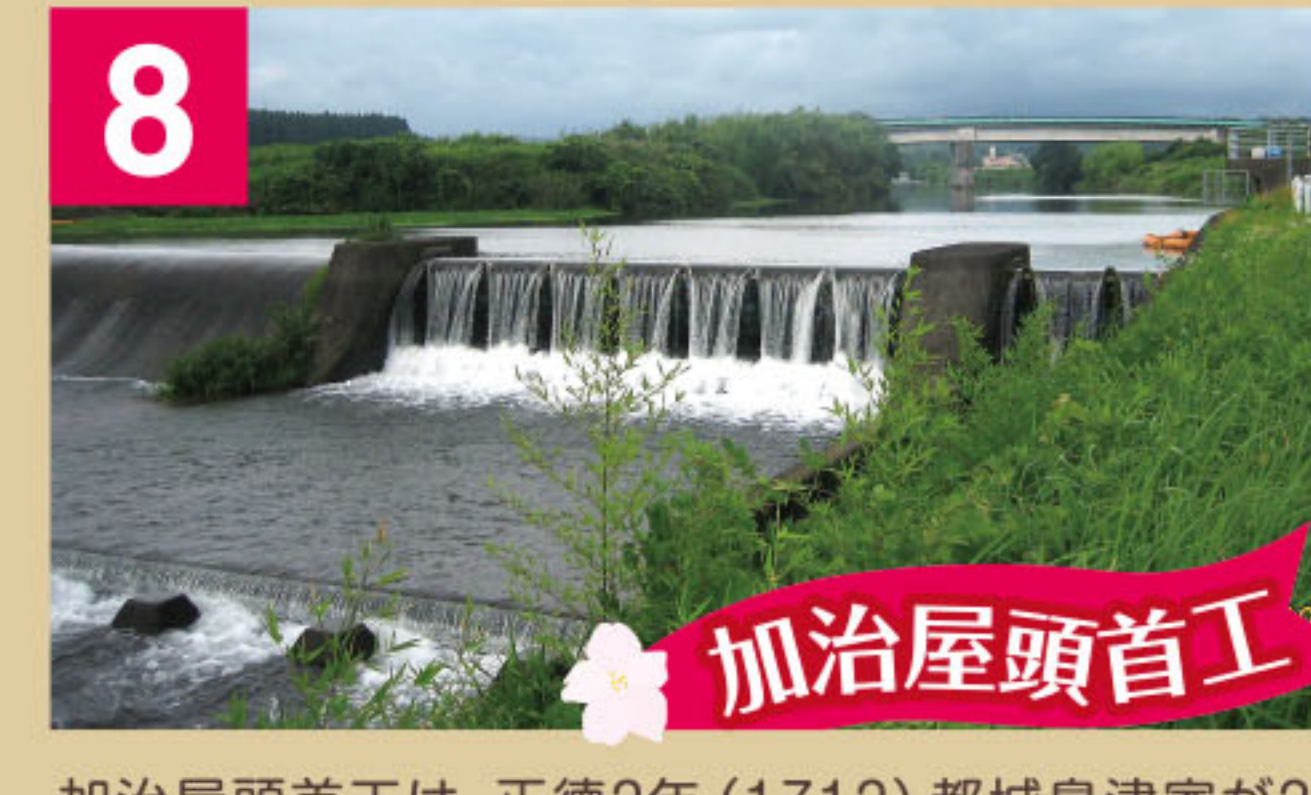
6 都原開拓記念碑
現在の都原一帯は、都城西飛行場跡だったため、太平洋戦争後に開拓の対象となり、多くの人たちが「都原」の大地に入植され、開拓に心血を注いでこられた。思い半ばにして、たおれた人、あるいは開拓を諦めた人など様々であった。それから60有余年、先人達の汗と涙の跡が現在の都原の地につながっている。



7 加治屋B遺跡
鎌倉時代後期の大規模な領主館跡。掘立柱建物跡や、居住空間とその背後に広がるシラス台地を区画する溝の跡など、南九州では最大級の規模を誇る。溝の跡により区画された空間は、東西・南北ともに約140m、面積として約6000坪を誇り、当時、この地にあった領主層の勢力の一端を垣間見ることが出来る。遺跡から出土した遺物の種類は、国内外の多岐にわたる。



横市地区は、都城市の中西部に位置し、東は小松原地区、西は鹿児島県曾於市に接し、北は山田町、南は五十市地区、北は庄内地区に接し、横市町、都原町、久保原町(一部)からなっている。北部は、東西に走る横市川沿いに緑豊かな田園風景が広がる農村地帯である。また、横市地区遺跡群と呼ばれるように遺跡が多く発掘されている。南部は、住宅・商店・教育施設・福祉施設等が立ち並ぶ市街地である。また、都城西飛行場跡は、戦後の開拓により住宅等となっている。



8 加治屋頭首工
加治屋頭首工は、正徳2年(1712)都城島津家が200歩の新田を開田し、寛政12年(1800)に柴井壘として築造された。大正14年(1925)には、コンクリートで生まれ変わったが、平成5年(1993)8月の大水害で流出し、平成7年(1995)6月に災害復旧事業で現在の頭首工に復旧された。柴井壘:雑木や小枝で流れをせき止めた場所



9 基本電子基準点
基本電子基準点は、地上約2万kmの高さを周回するGPS衛星が発信する電波を受信し、この地点の位置を観測するための施設である。受信データは、つくば市にある国土地理院に毎日、転送している。この受信データは、土地の測量、地図の作成、地震・火災噴火予知の基礎資料に使用される。GPS観測局 No.950482



10 史跡 桜田門外の変 有村次左衛門寓居の地
「桜田門外の変」とは、江戸城桜田門外で、安政7年(1860)3月3日雪の朝、「安政の大獄」に反感を持った水戸・藤野浪士18人が、江戸幕府大老の井伊直弼(なおすけ)の行列を襲った事件。ただ一人薩摩浪士として参加した有村次左衛門(23歳)は、井伊直弼の首級を挙げたが、自らも刃を喰った。彼は幼少時、父母と共にここに寄寓したと伝えられている。東照宮のすまい 首級討ち取った首寄寓よその家に一時泊って世話になること



11 都城西飛行場跡
昭和9年9月、現在の西中学校周辺を中心に、当時の日本陸軍の飛行場が建設されることになり起工式が行われた。当時は、都城市民や軍隊、および近郊近在からも多くの応援者が駆けつけ、延べ38000人が建設に従事し、まさに官民一体の飛行場建設であったといわれている。現在は、陸上自衛隊都城駐屯地の都城訓練場となっている。



12 都城航空機乗員養成所跡
当初、民間パイロットの養成を目的として、昭和17年に全国に13箇所開設され、その一校が現在の都原町に開設された。その後、戦況が厳しくなってきた昭和19年4月、当時の陸軍飛行学校に編入され、当養成所は閉鎖され軍の管理下に置かれ終戦となった。